

院内シミュレーションについて

福田病院では、いろいろな事態に対し、シミュレーションを行っております。
どのシミュレーションも緊急事態に対し、必要な訓練です。
当院では、安心、安全をモットーに、職員の教育を今後もさらに充実していきます。

臨床系

- 日本母体救命システム普及協議会公認講習会(J-CIMELES)
- 新生児蘇生法(NCPR)
- 年2回ほど行っている当院独自の救急シミュレーション（死戦期帝王切開等）
- 非医療従事者向けのBLS(Basic Life Support)講習会

災害（火災、水害、地震など）に対するシミュレーション 電子カルテが止まった場合のシミュレーション

日本母体救命システム普及協議会公認講習会について

現在でも日本の母体死亡は、年間40-60例という状態です。起こってはいけない母体死亡ですが、年で県1例ほど起こっていることが現状です。分娩前後、母体が急変することは、稀ではありません。その対応の習得の重要性は、以前から言われてきたことです。

母体救命システムは、京都を中心に2010年に立ち上げられ、各都道府県産婦人科医会や大学を中心に公認講習会が開催されております。当院でも公認インストラクター5名を中心に、年3回、福田病院関連機関も対象にベーシックコース講習会（分娩に携わる医師、助産師対象）を行っております。また、県産婦人科医会が年1回ベーシックコースとインストラクター養成コースを行っております。今年からは、熊本大学でもベーシックコース講習会が開催されました。

ベーシックコースでは、1.急変の感知 2.母体の救急対応 3.母体の心肺蘇生 4.急変に対する準備等、シミュレーションを通して、学びます。シミュレーションシナリオは、17あり、時代に合わせてアップデートされております。



NCPR講習会について

新生児蘇生法：NCPRは、日本周産期・新生児医学会において2007年より普及事業が開始され、そのNCPR普及事業の主となる活動は、「出生時に子宮内環境から子宮外環境への移行、すなわち“呼吸循環の確立”が遅れる新生児に対して、いかにして効果的な心肺蘇生を行うか」を学ぶことを目的として講習会を開催しています。

当院では2012年より、A（アドバンス）コースのNCPR講習会を中心として開催しており、このコースは気管挿管や薬物投与を含めた高度な新生児蘇生を習得するためのコースとなっています。講習会の内容は『日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト』を基に、プレテスト・講義・基本手技実習・シナリオ実習・ポストテストを実施しています。

インストラクターは医師・助産師・看護師合わせ9名在院し、2021年12月現在において140名以上の医療スタッフがAコースを修了しています。

私たち医療スタッフはこれからも専門性の高い講習を行い、安全に新しい誕生を迎えられるよう努めてまいります。



救急シミュレーションを行いました

3月24日、福田病院にて救急シミュレーションが実施されました。

1月の実施を予定していましたが、新型コロナウイルスによるまん延防止措置が発令され、3月末の実施となりました。

今回は日曜・祝日に外来にいられた妊婦さんが、常位胎盤早期剥離と診断され、緊急帝王切開となり、手術中に輸血を施行するというシミュレーションで行いました。事前に練習を行いましたが、本番では練習と異なる点があったり、医師の指示が聞こえなかったりと、戸惑う場面もありました。日曜・祝日の緊急手術は時々ありますが、手術室のスタッフが少ない中で、輸血を行う大変さを痛感し、医療機器の使い方をしっかり把握しておかないといけない、と感じました。